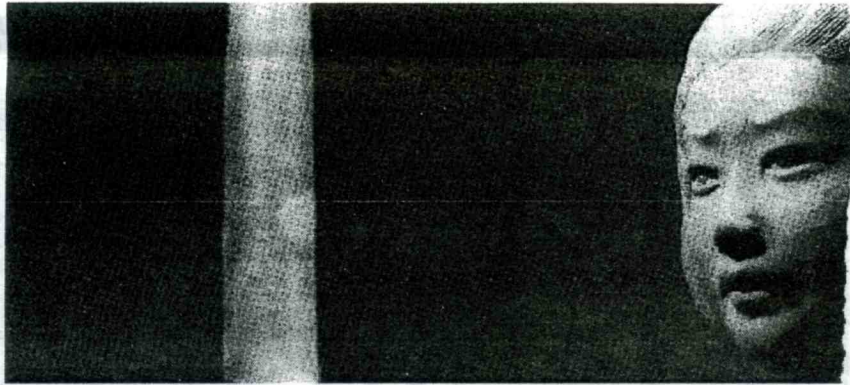


# naratara

2001 年 1 月 創刊号



奈良 21 世紀フォーラム理事長

石橋 設一

奈良二十一世紀フォーラムは、昨年四月十二日奈良県知事より、特定非営利活動法人の認証を得てから本格的に会員募集と並行して事業活動の企画立案そして一部事業を展開して参りました。

設立イベントの際にご挨拶申上げました通り、二十一世紀は国境を超えたまちづくりが形成されていく時代で、皆さんの協力を得ながら、世界の人も協調して新しいまちづくりのための社会活動に貢献できるよう頑張つて参りたい所存であります。低成長、少子化の進展で終身雇用と年功賃金による「職縁社会」が維持できなくなりつつあります。それに代わる次世代の人間関係として、

ボランティア活動など自らの好みと美意識、倫理観を軸とした「好縁社会」の浮揚が期待されております。

幸い二〇〇一年は国際ボランティア年であります。すでにご入会いただいている会員の皆さま、そしてこれからご入会をお願いする皆さまのご協力をいただきながら、今年度は多彩な事業を計画しております。

平成十二年十二月十三日発表された、自民党税制改正大綱の中の NPO 税制によれば、非営利、公益性の視点から国税庁長官に認可を受けたものは、寄付金控除などの特例措置を講ずるといふことで、一月の通常国会に提出される運びになりました。モノの豊かさを求める価値観が薄れ、自らの好みで選び、楽しさを第一とする世の中が始まるうとして、即ち好縁社会の到来であります。

二十一世紀の国際ボランティア年の年頭にあたり、第一回会報の発刊と併せて挨拶とさせていただきます。



## 奈良 21 世紀フォーラム設立記念イベント

平成 11 年 10 月 23 日 (土)

奈良県立文化会館国際ホールにて

梯 剛之 ピアノリサイタル

安田 喜憲 記念講演「いつから私たちはこんなに貪欲になったのだろうか」

大正琴琴真会 祝賀演奏「越天楽」

### 梯 剛之 ピアノリサイタル

このリサイタルは、一九九八年の暮れ、厳しい審査で知られるロン・ティボー国際音楽コンクールで全盲のピアニストとして初めて二位入賞を果たしたばかりの梯剛之（かけはしたけし）さんを招いて奈良県で開催され、一九九九年の日本クラシック界最大の成果の一つに数えられました。

奈良公演に臨む梯さんの意気込みは大変なもので、前日奈良入りした剛之さんは、奈良教育大学の山口先生宅のピアノに向かって、夜遅くまで練習、見学に訪れた関係者もお母様の叱責のすさまじさに居たたまれなくなり、リハーサル室から全員逃げ出した程です。そのかいがあったか当日の演奏はほぼ完璧の出来栄えだったと伝えられています。

梯さんは、生後一ヶ月で小児癌のため失明しますが、お母様の強い希望で、普通の小学校にさまざまな反対を押し切って入学しました。

奈良公演には、教室で梯さんを励ました当時の同級生がかけつけ、花束を贈った他、初めてお母様もステージに立たれ、どのようにして、目の見えない我が子にピアノを教えたのか語り、深い感動を呼



### 安田 喜憲 記念講演

会場には目の不自由な人とその介添えのグループ「歯車会」の約七十人を招待しました。

植物の花粉は、非常に強い膜を持ち、湿地など空気の影響を受けない所に落ちると何万年でも腐らないで残ります。

そこで、国際日本文化研究センターの安田教授達は、世界の四大文明発祥地周辺の湿地でボーリングを行い、花粉の化石を抽出して、どのような植物の花粉がどのくらいあるのかを調べることによって、過去の森の状態を復元、人類の古代都市文明が豊かな森林を利用して繁栄したと、そして、皆伐によって、衰退したこ

とを明らかにしました。

しかし、日本列島では、「鎮守の森」の信仰などによって奇蹟的に森林が保護され、日本文化は実は森の文化であったことを一九八〇年、実証したとされます。

安田先生達はその後中国の長江流域に残る稲作文化の遺構調査を日中合同で進めムギを中心とする黄河文明とは異なる第5の長江文明の輪郭を明らかにした上、日本の稲作文化のルーツとして位置づけました。

この記念講演は、飛鳥・藤原・平城の宮都調査研究にカクカクたる成果をあげてきた、奈良県内の研究者に新鮮な衝撃を与えたばかりか青垣山や吉野の森林保護に関心をいただく広い市民の熱い支援を得ました。



